

節分は、暦の大きな区切りとなる、立春・立夏・立秋・立冬の前日のことをいいます。季節の大きな変わり目ですね。

やがて、それら節分の中の「立春」が、一年の始まりということで、特に重きを置かれるようになり、今日では、節分といえば、立春の前日をさすようになりました。

その節分に行われる豆まきの由来は、中国の年中行事である「追儺<sup>ついな</sup>」にあるといわれています。

これは、鬼払いの儀式で、私たちの生活の平和を乱す悪い鬼を追い払う、というものです。この「追儺<sup>ついな</sup>」に由来する豆まきは、江戸時代に広く行われるようになりました。「福は内、鬼は外」と声を上げながら、豆をまくのは、皆さんもご存じのことと思います。

中国の年中行事に由来するのですから、この鬼払いの考え方は、仏教にはないわけです。しかし、豆まきは、神社のみならず、お寺でも行われています。

仏教では自分自身の心を見つめます。鬼は、自分の外にいるのではなく、私たちの心の中にある「むさぼり」や「いかり」、「おろかさ」などと受け止め、それを仏教では「煩惱<sup>ぼんのう</sup>」といいます。すなわち、「煩惱」が鬼であるといっても良いでしょう。

自分の中にあるその鬼は、心の平和を乱し、ひいては生活全般を乱します。この「煩惱」という鬼は、無意識にうごめき、私たちを苦しめます。

むやみに自分の外に追い出すのではなく、まず、この鬼がみずからの中にあることに、気づかなければなりません。

節分は、豆をまきながら、みずからの心を省みる日です。いうなれば、自分自身の心に豆をまくのです。

今年の節分は、日々が安らかであることを願うと同時に、みずからの心の中にある「煩惱」、つまり「むさぼり」や「いかり」、「おろかさ」といった鬼に、「気づき」という豆をまいてください。

ちから一杯、元気よく。そして、心をこめて。